

本口即下百廿七附表ノ事



從四位勳四等鳥居斷三叙勳ノ

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治四十四年一月二十四日

内閣總理大臣侯爵桂太郎



内閣

四



1874.1.24

四



從四位勳四等鳥居斷三叙勳ノ

右謹テ裁可ヲ仰ク

明治四十四年一月二十四日

内閣總理大臣侯爵桂太郎



内閣



本件申裁可ノ上ニ書類横田書記官  
宅ニ出下移下至又注階進叙トシテ  
知事下叙

賞勳局

賞勳局總裁



有

内閣書記官 山田 二傳ハ風ニ勤王ノ志ヲ抱キ  
久シク人重シニシテ...

慶應四年一月大垣藩軍事副總裁助役トシテ東  
山道總督岩倉大夫同八百九麾下ニ屬シ後大垣  
藩貢士トシテ出仕ス尋テ大垣藩軍事奉行トシテ  
東山道先鋒ト為リ奥州白河ニ本松會津等ニ  
於テ戰鬥シ凱旋ノ後徵士三河縣知事大垣藩權  
大參事柏崎縣參事等ニ任シ明治七年二月佐

内閣

賀暴動ニ付奮藩兵募集ノ内命ヲ奉シ大改鎮  
臺ニ出張セル等功勞不貲九年六月六等判事ニ  
任セラレ諸職ヲ歴テ十九年七月控訴院評定官ニ  
任シ二十一年五月勳四等旭日小綬章ヲ敘賜セ  
ラレ二十三年七月勅任官二等ニ敘シ十月判事ト  
為リ同月三十日休職ト為リ二十六年三月依願本官  
ヲ免セラレタル者ニ候處目下病氣危篤ニ陥リタル趣  
ヲ以テ勳等進叙ノ儀司法大臣ヨリ上奏有之依テ  
按スルニ敘勳四等後在職實期一年二月ニ滿タス  
敘勳内則ニ照スニ進叙ノ限ニ在ラスト雖モ前記ノ



明治四十四年一月廿三日

内閣總理大臣

賞勳局總裁



從四位勲四等鳥居斷三儀ハ夙ニ勤王ノ志ヲ抱キ  
慶應四年一月大垣藩軍事副總裁助役トシテ東  
山道總督岩倉大夫同八年丸麾下ニ屬シ後大垣  
藩貢士トシテ出仕ス尋テ大垣藩軍事奉行トシテ  
東山道先鋒ト為リ奥州白河ニ本松會津等ニ  
於テ戰鬪シ凱旋ノ後徵士三河縣知事大垣藩權  
大參事柏崎縣參事等ニ任シ明治七年二月佐

内閣

賀暴動ニ付奮藩兵募集ノ内命ヲ奉シ大坂鎮  
臺ニ出張セル等功勞不貳九年六月六等判事ニ  
任セラレ諸職ヲ歴テ十九年七月控訴院評定官ニ  
任シ二十一年五月勲四等旭日小綬章ヲ授賜セ  
ラレ二十三年七月勅任官二等ニ敘シ十月判事ト  
為リ同月三十日休職ト為リ二十六年三月依願本官  
ヲ免セラレタル者ニ候處目下病氣危篤ニ陥リタル趣  
ヲ以テ勲等進敘ノ儀司法大臣ヨリ上奏有之依テ  
按スルニ敘勲四等後在職實期一年二月ニ滿タス  
敘勲内則ニ照スニ進敘ノ限ニ在ラスト雖モ前記ノ



如ク維新ノ際從軍戰勲アリ奮藩主ヨリ百三十  
石賞典祿ヲ受ケタル等事蹟顕然ナルヲ以テ  
此際特別ヲ以テ勲三等ニ叙シ瑞寶章ヲ授  
ケラレ度此段允裁ヲ仰ク

内  
閣



志

元判事從四位勲四等鳥居漸三儀夙  
 勤王志ヲ抱キ慶應四年一月大垣藩  
 軍事副總裁助役トシテ東山道總督  
 岩倉大夫同八千丸麾下從ヒ後大垣藩  
 貢士トシテ出仕ス尋テ大垣藩軍事奉  
 行トシテ東山道御先鋒トナリ奧羽白  
 川ニ於テ藩兵ヲ率ヒ再三賊軍ト戦ヒ  
 進ンテ二本松及ホナリ嶺ニ戰ヒテ會津  
 城下ニ入り攻城スルコト數旬其間血戰  
 奮闘數回遂ニ賊軍ノ降伏スルニ至リテ  
 東京ニ凱旋シ明治元年十月大總督  
 有栖川宮ニ拜謁シ縮緬二卷ヲ賜フ  
 翌日吹上御苑ニ於テ恭シク天願ヲ拜シ酒  
 饌ヲ賜ハル同年十二月五日徵士三河縣知事  
 トナリ廢縣トナルニ及ビ依願其職ヲ被免同  
 年十一月大垣藩權大參事ニ任セラレ四年  
 三月藩知事ノ内願ニ依リ本官ヲ免セラレ  
 同年十二月五日柏崎縣參事ニ任シ同六年  
 六月十五日廢縣ト共ニ廢官トナリ同七年  
 二月十九日陸軍省七等出仕ニ補セラレ  
 翌日佐賀暴動ニ付舊藩兵募集ノ内命  
 ヲ奉シ大改鎮臺ニ出張ス九年六月十  
 日六等判事ニ任セラレ東京上等裁判所  
 詰大審院詰廣島裁判所長ノ各職ヲ奉  
 シ十年六月廿八日廢官トナリ更ニ判事



二任セテレ廣島裁判所長トナリ十四年一  
 月廿八日大審院詰ヲ命セラル十七年十二  
 月十一日東京始審裁判所長被仰付十九  
 年七月十日控訴院評定官ニ任シ東京控  
 訴院詰ヲ命セラル二十一年五月廿九日勲  
 四等ニ叙シ旭日小綬章ヲ賜ハリ二十三年  
 七月三十日勅任官ニ等ニ陞リ從四位ニ叙  
 セラル二十三年十月勅令第百五十四號ニ  
 依リ判事トナリ同月三十日勅任官ニ等  
 ニ叙シ下級俸ヲ賜フ同日休職トナリ二十  
 六年三月廿二日依願本官ヲ免セラル如此  
 殆ト二十有餘年各地ノ要職ニ在リテ勵精シ  
 君國ノ為メニ盡ス所勤ナカラズ殊ニ維新ノ

際ニ當リテ兵馬控總死生ノ問ニ奔走シ國  
 事ニ盡瘁シタル等其功績頗ル顯著ナリトス  
 然ルニ目下病氣危篤ニ陥リ命旦夕ヲ期ス  
 ベカラズ仍テ此際持旨ヲ以テ相當勲位被  
 進度復歷書相添ヘ此段及上奏候也

明治四十四年一月二十三日

司法大臣子爵岡部長職



内閣總理大臣侯爵桂 太郎殿



履歴書

元判事從四位勲四等鳥居 断三

本籍岐阜縣安八郡大垣

現住所

慶應四年戊辰一月

一 大垣藩軍事副總裁助役トシテ東山道總督岩倉大

夫同八千九麾下ニ從フ

同 年三月

一 大垣藩貢士トシテ出仕

同 年七月

一 大垣藩軍事奉行トシテ東山道御先鋒へ出張奥州

白川ニ於テ藩兵ヲ卒ヒ再三賊軍ト戰フ進テ二本松

及ヒホナリ嶺ニ戰テ會津ニ入ル攻城八月ヨリ九月

ニ至ル其間血戰數回終ニ賊軍降伏ニ至ル追從軍セリ

明治元年十月

一 東京ニ凱旋シ大總督有栖川宮ニ拜謁シ縮緬ニ卷

ヲ賜フ翌日吹上御苑ニ於テ恭 天顏ヲ拜シ酒ヲ

賜フ

一 同 年十二月五日

徴士三河縣知事被仰付候事

行政官

同 二年二月十三日

一 昨年官軍御先鋒へ出進每戰致盡力指揮

行届遂全功候依之爲賞百三十石ヲ藩主ヨ

リ賜フ

同 年六月

一 三河縣被發



同年七月

一依病氣願職務被免候事

行政官

同年八月

一 大垣藩少参事心得

同年十一月

一 任大垣藩権大参事

太政官

同四年三月

一 免本官

藩知事ヨリ西洋各国視察トシテ差遣シ度ト願ニ依リ

同

同年十二月五日

一 任柏崎縣参事

同五年十一月十日

一 敘従六位

同六年六月十五日

一 柏崎縣被免

同七年二月十九日

一 補陸軍省七等出仕

同年同月二十日

一 佐賀暴動ニ付時宜ニ依リ舊藩兵募集ノ

内命ヲ奉シ大坂鎮臺へ出張ス

同年八月十九日

一 補陸軍省六等出仕

同九年六月十日

一 任六等判事

同年同月十二日

一 東京上等裁判所詰被仰付候事

同年九月廿三日

司法省



一 大審院詰被仰付候事

同

同十年四月九日

一 廣島裁判所左勤被仰付候事

同

同日

一 廣島裁判所長被仰付候事

同

同十年六月廿八日

一 一等判事以下四級判事補点被廢

同日

一 任判事

太政官

同日

一 辛俸千二百圓下賜候事

同

同日

一 廣島裁判所左勤被仰付候事

司法省

同日

一 廣島裁判所長被仰付候事

司法省

同十二年三月一日

一 修補課委員可被心得候事

同

同十三年一月七日

明治十二年第五十六號御達依り本月ヨリ辛俸

千五百圓下賜候事

同年同月十五日

一 自今年俸千八百圓下賜候事

太政官

同十四年一月廿八日

一 大審院詰ヲ命シ候事

司法省

同十年十二月廿八日

一 大審院刑事局詰ヲ命シ候事



同十五年十二月廿二日

一自今年俸貳千百圓下賜候事

太政官

同年同月廿九日

一敘勲五等雙光旭日章ヲ賜フ

賞勲局

同十六年十二月廿七日

一第六十五号仰書ニテ五等官相當

同十七年二月廿一日

一敘正六位

宮内省

同年十月十日

一法律諮問會員ヲ命シ候事

太政官

同年十二月十一日

一東京始審裁判所長被仰付候事

司法省

同月十三日

太政官

一自今年俸貳千四百圓下賜候事

同十九年五月四日

一勅令第四十號ニテ裁判所官制ヲ定メラル

同十九年五月十日

一任東京始審裁判所長

同

一敘奏任官一等

同

同 日

一敘奏任官一等

同 日

一任控訴院評定官

太政官

同年七月八日

一敘後五位

宮内省

同 月十日

宮内省

一任控訴院評定官

太政官



一敘奏任官一等

同月十三日

一下级俸下賜

一東京控訴院詰ヲ命ス

同 年十二月廿八日

一官制改革之際異常勉勵候ニ付金百圓賞

與ス

同二十年十二月廿日

一中级俸下賜

同廿一年一月九日

一第一期東京重罪裁判長ヲ命ス

同 年五月廿九日

一敘勲四等賜旭日小綬章

司法省

同年七月二日

一第三期東京重罪裁判長ヲ命ス

同廿二年十一月廿九日

一明治廿二年八月三日勅令第百三號ノ旨ニ依リ大

日本帝國憲法發布記念章ヲ授与ス

同廿三年一月四日

一第一期東京重罪裁判長ヲ命ス

同 年七月一日

一第三期東京重罪裁判長ヲ命ス

同 月三十日

一敘勲任官二等賜下级俸

同年八月六日

一敘従四位

宮内省

内閣

同

司法省

賞勲局

司法省

賞勲局

同

同

同

同

司法省



同年十月十八日

勅令第百五十四號 依り判事

同年十月三十日

一 敍勅任官二等賜下級俸

全日

一 休職ト心得可シ

同廿六年三月廿二日

一 依願免本官

内閣

同

司法省